熱　海　新　聞　　2010年7月18日（日曜日）

伊豆路

「らしさ文化」は共通の観光資源

中井　正勝

温泉観光都市として発展してきた熱海は、来訪される方々の「癒やし」の場でもありました。

著名人はもとより、財産家のステータスシンボルとして熱海に別荘を建て、英気を養いまた、養生を兼ねて熱海の温泉を満喫してきました。一時期の繁栄は熱海を変貌させています。当時の熱海は、アミューズメント（娯楽）も兼ね備えていたのですが、惜しまれるべくは、文化財が伴わなかったということでしょうか。

狭い国土の観光に倦怠(けんたい)感を覚えた人たちは、見知らぬ国、海外へとシフトするようになり、影響を受けた熱海では昭和43(1968)年を境に来訪者が減少の傾向にあります。温泉力を生かす工夫が求められているのかもしれません。

島国日本は水に恵まれてきました。温泉はその最たるもので、入浴になじんできた歴史があります。

入浴そのものが日本人のDNAとなっており、体臭のしない日本人として、ヨーロッパでは知られております（ヨーロッパの人たちはにおいを好みます）。

生活文化・様式の違いは、人の感性に影響を与え、さまざまな文化が誕生します。しかしながら、芸術的要素の高い文化と、その国、地域のもつ「らしさ文化」は、世界共通の観光資源とも言えます。

芸術の国・フランスでは、世界各国からの観光客が絶えず、文化芸術・らしさの国としてその重責をになっており、観光都市熱海にとっても真摯(しんし)な学習に値するのではないでしょうか。

文化とは、人間が向上しようとして造り出した物心両面の成果と訳されております。温泉、芸者、花火は文化に値するとして熱海では観光の根幹と定義付けされております。文化はその存在感によって感動する一方で、チャレンジ精神「革新」も芽生えて来ます。

衣食住と表現する日本、住食衣を強調するヨーロッパとは、文化の値に隔たりもうまれております。ラフなファッションの日本人が海外を行来する姿が増加しておりますが、異文化の魅力にまさるものが熱海にもあります。

訂正　6月20日付の本欄で「下多賀」とあるのは「上多賀」の誤りでした。

（旧日向別邸保存会会長）

伊豆路第3回